

令和3年 3月 12日

令和2年度学校評価結果報告書

桶川市立 桶川東小学校
校長 小林 松司

1 目指す学校像

児童が輝き 保護者・地域が輝き 職員が輝く学校
和の学校 なかよしの学校 桶川東小学校

2 評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	1	学校は報告・連絡・相談の徹底を図り、組織での課題解決を図っている。	B	小さなことであっても情報を共有しているので、情報の整理がすぐにでき、次の一手を早く進めることができる。また、学年・生徒指導主任・主幹教諭・教頭・校長とそれぞれのレベルで問題を把握し、チームとして課題の解決を図ることができている。	報・連・相で新型コロナウイルス対策に取り組んでいた。計画通りでなくとも、臨機応変に工夫しながら取り組めるとよい。
	2	学校は諸会議の計画的・効率的な運営と、校務支援・週報の活用を図っている。	A	職員会議では、校務支援ソフトを活用し事前に会議資料をPDFで配付し、会議の効率化と文書量の削減を実施している。また、連絡事項を職員全体に向けて掲載したり、メッセージや回覧板を送ったりすることで連絡事項の周知や調整を行っている。また、当日と翌日の行事予定を職員室のホワイトボードに記入し、出勤時に必要な情報を教職員全体に伝達している。	
学習指導	3	学校は学習課題を明確にしたわかる授業を創造し、基礎基本を定着させている。	B	年度当初に休校措置をとっていたこともあり、学校として授業起立を身につけさせたいと、丁寧に授業を進めることを意識し、実践してきた。保護者アンケート「お子さんにとって分かりやすい授業が行われていますか。」の問いに、94.9%の保護者が肯定的な回答をしてくださった。	一人一人が考える力等による学び合う指導を充実させていると思う。 コロナの影響により、授業日数が減少した。これが児童一人ひとりの習熟度にも差が出やすくなっていないか確認しておく必要がある。
	4	学校は教材・教具を工夫し、教育機器を有効に活用して指導にあたっている。	B	昨年度も定期的に大型モニターを使用した授業を進めていたが、今年度はデジタル教科書の導入により、授業の展開の幅が広がった。依然として教育機器の活用による不安を感じる教職員がいるが、新たに研修を進めていくことで今後のギガスクール構想にも対応できるものと考えている。	
生徒指導・教育相談	5	学校はいじめ防止基本方針を基に、児童理解を進め、いじめの根絶を図っている。	A	今年度は、さわやか相談員を中心とした、学校の教育相談体制が整い、周知、活用が図られている。学期に1回の教育相談日には、いわゆるコロナストレスも意識し、相談・面談を実施した。いじめ防止に向けて6・10・2月に実施した児童アンケートでは、記入があったのべ440人と面談を行い、解決に向けて対応した。面談は原則として複数の教員で行った。また、いじめと認定した5件についても指導・観察を継続している。	廊下を走る児童などについては教職員一人一人の取組によって改善されてくるように思う。（児童にしっかりと目を向ける）
	6	学校は特別支援教育の充実と配慮を要する児童への組織的な対応を行っている。	A	特別支援コーディネーター、教育相談主任、生徒指導主任など情報を共有している。児童との面談、保護者との面談を通して、児童や保護者の願いを汲み、出来る対応を検討し、周知実行している。また、今年度途中から教育相談コーディネーターを配置し、教育相談体制の強化を進めている。	

健康教育	7	学校は、栄養バランスのとれた規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めている。	A	栄養教諭が中心となり、本校の食育を推進している。学校ファームで栽培したジャガイモ（6年生）・サツマイモ（2年生）を給食に取り入れるなど、食に対する関心を高める活動を行ってきた。また、校内放送で、給食委員会の児童が毎日献立の放送を行うなどの活動も行った。	学校再開後も分散登校をはじめ、“密を避ける”“換気”“手指消毒”などしっかり行っていた。 避難訓練や救急救命など十分練習してほしい。
	8	学校は、児童に災害や危険を回避できる生活安全能力を育成するための具体的な指導を適切に実施している。	B	今年度は、新型コロナウイルスの影響があり、なかなか計画通りに一斉下校や避難訓練を実施することができなかったが、対策を検討し、3学期には全校での避難訓練を実施することができた。今後も感染症拡大の影響は出ることが想定できるが、地震による避難だけではなく、不審者対応の避難訓練などの実施を検討している。	
学習環境	9	学校は掲示物の工夫や整理整頓に配慮したり、体力向上の取り組みをしたりして、学習と運動の環境を整備している。	B	校内には、各担当が季節を感じさせるものを掲示したり、鑑賞するために児童の作品を掲示したりしている。新型コロナウイルスの影響で、例年実施していた学校応援団の環境ボランティアによる毎月の定期活動ができなかった。保護者の協力による学校清掃活動は2学期末に2度実施した。保護者アンケートでは、98.3%の保護者が肯定的な回答をしてくださった。	学校応援団やPTA環境部を活用して環境改善に努めてほしい。
	10	学校は学校安全計画のもとに、施設や設備の点検・保守・安全管理を十分に行っている。	B	毎月10日に、定期安全点検を実施しており、その都度危険個所の確認・修繕の申請をしている。なお、校内で修繕できるものについては、積極的に修繕しており、スピード感をもって取り組んでいる。校舎の老朽化により、雨漏り・床の破損等が見られるが、市教委と密に連絡を取り、対応している。	
教職員の資質向上	11	学校は、学校課題研究の組織を整え、組織的、計画的に進めている。	B	学校課題研究主任を中心に、全教職員で統一した指導案を作成したり、コロナ禍における授業研究会、研究協議会を2回（授業は3本）実施したりし、可能な限りで、来年度の本発表に向けた取組を推進することができた。	学校課題研究も大事だが、子供と多く向き合ってもらいたい。
	12	学校は倫理確立委員会の機能を充実させるなどして服務規律の徹底を図り、教職員は服務の厳正を認識し、実践している。	A	教職員倫理確立委員会の研修を、毎月の職員会議後に計画的に実施している。毎回、倫理確立委員会の長である教頭と内容について話し合い、社会で取りざたされている問題に対し、全教職員で向き合うことができるようにしている。教職員事故防止強化運動期間には、職員会議後とは別に、倫理確立委員会を実施し、不祥事根絶への意識を高めた。	今までの例にとらわれず改善していくのはよいこと。向上に向けての効率化を実現してほしい。
家庭・地域との連携	13	学校は、保護者やPTA、地域の機関との連携を図って活動をしている。	B	コロナ禍ではあるが、感染症対策を講じたうえで、PTA執行部会を実施し、学校・児童のための話し合いを進めてきた。また、今年度から始まった学校運営協議会では、地域の方からの意見を頂戴することで、本校の教育活動を再確認することができた。	休業中も学校のホームページを更新していたり、情報メールを流していたり保護者や児童の不安を取り除こうとしていた。
	14	学校は、学校だより・情報メール・ホームページなどにより、教育活動の様子や情報などを積極的に保護者・地域に発信するよう努めている。	A	毎月の学校だよりや学年だよりに加え、保健だよりや食育だよりなどを発行している。学校ホームページは、担当者が今日の給食や行事などを、ほぼ毎日更新している。また、今年度は保護者に来校いただく機会を設けることができなかったため、学習の様子などを定期的に更新している。コロナ禍においては、学校からのお願いや情報の提供、行事等の変更など多くの情報を学校情報メールで配信をしている。そのため、新1年生の保護者に対しても早期の登録をお願いしている。	

*評価項目については各学校で領域ごとに項目を2～3設定する。